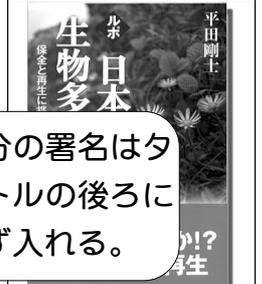


これがプロの技！ レポート書きの極意、教えます



講義資料
2004年5月19日
特別付録
提供
道工大 碓山恵子研究室
執筆/編集
平田 剛 士



平田剛士・著 地人書館・発行
著者割引価格で
絶賛発売中

タイトルは工夫のしどころ。レポートのキモを一言で。題が決まると作文方針が決まる。

◎金曜アンテナ (2004年2月6日号)
14字60行
●箕輪登・元郵政相がイラク派兵差し止めを提訴

字数を設定しておく、構成を考えやすい。起承転結と単純に4分割するのも手だ。

平田剛士
イラク派兵って憲法違反じゃないの——？ 小学生でも思いつく「素朴なギモン」を、初めて真っ向から裁判所に問い質したのは、年老いた元大臣だった。一月二八日、「イラクに自衛隊を送ってはならない」と札幌地裁に提訴したのは、小樽市在住の箕輪登さん（七九歳）。一九六七年に衆院初当選後、防衛政務次官や衆院安全保障特別委員会委員長などを歴任し、鈴木善幸内閣では郵政相を務めた。九〇年に引退したが、今も「石破（茂・防衛庁長官）君には自衛隊法をもっとよく勉強したらどうかと言いたい」と、気後れはない。

訴状によれば、今回のイラク派兵は〈自衛隊員に本来の任務に反する行為を行なわせ、国民にイラク戦争への事実上の「参戦」を強いるもので〉（明らかに憲法第九条、自衛隊法に違反する）（ホームページ<http://www.hg-law.jp/iraq>に全文）。シンプルに本質だけを衝いた。

自民党国防部会副部会長を長く務め、「タカ派」を自認する。提訴後に開いた記者会見でも「憲法は自衛の権利は認めてくれている。日本の防衛のためにはタカにならない」と明言した。だが今回の重装備部隊のイラク派遣は「小泉さんがいくら国際貢献だと言っても、まことに間違っている」。「友だちを裏切るようで心に障るものもあるが、国の将来と国民の平和的生存権を考えて、最後のご奉公をしたい」と決意を語った。

訴状には道内一〇六人の弁護士たちが名前を連ねた。手弁当でサポートに当たる。弁護士事務局の佐藤博文弁護士は「自衛隊の合憲性など、箕輪さんと見解が完全に一致しているわけではない」と、タカ派原告による反戦裁判の難しさを認めるが、「自衛隊設置から五〇年、今まで一人も殺さずにきたのに、このイラク派遣で懸念がいよいよ現実になるかも知れない。大異を留保して、さまざまな立場から多角的に支援していただければ」。

弁護士事務局への連絡は電話011・231・1888、ファクス011・231・1785
(フリーランス記者 平田剛士、写真も)

《写真説明》

箕輪登さんは「自衛隊員にイラクで殺人罪を犯させるわけにはいかない」と語った。

【編注】記事中の「電話」「ファクス」は丸めてください。

文中の固有名詞などの読みは以下のとおりです。小樽市(おたるし)、箕輪登(みのわのぼる)、佐藤博文(さとうひろふみ)

自分の署名はタイトルの後ろに必ず入れる。

漢数字とローマ数字は普通混在させないが、掲載誌独自のルールがある場合はそれに従う。

編集者への伝言は、本記とは別に「編注」と指示して表記。

読みにくい漢字には読み仮名を添える。

編集者がコメントを書き込めるよう余白はじゅうぶんに。2～3cmあってもOK。